# 東京病院ニュース

第22号　2008年7月1日発行

発行元　独立行政法人 国立病院機構 東京病院
〒204-8585　東京都清瀬市竹丘3-1-1
TEL 042(491)2111　FAX 042(494)2168
ダイレクト・イン・ダイヤル 042(491)4134
ホームページ　http://www.hosp.go.jp/~tokyo/

## 患者さんも参加しよう『医療安全文化』

病院での診療が複雑になるにつれいろいろな事故が頻発しております。最近でも某大学病院での右左眼科手術間違いが報道されました。

新聞紙上騒がせるような大きな医療事故を起こさないために、小さな間違いであっても報告し、その分析に務めることが、重大な医療事故を未然に防ぐ確実な方法とされております。これをヒヤリハット報告制度といいます。当院でも、この制度を平成13年から導入しています。最近の事例ではこの中でとくに、患者さんの間違いが、重要な問題になっています。

入院された場合は以前から、患者さんには手首に必ずネームバンドをつけていただいています。また同じ病棟に同じ姓の方が、3組から5組いらっしゃることもあるのです。そこで同姓の別の患者さんが入院されてきた場合は、両者に同姓患者さんカードをお渡して、検査のときは自らお名前を名乗っていただくことを御願いしています。それでも採血検査において、姓だけで確認され、異なった患者さんから採血されたこともあります。

大きな事故がおこってしまってから誰が悪いと騒いでも、患者さんご自身の損害は取り返すことは簡単にはできません。そこで患者さんご自身がこの活動に参加することが、重大な医療事故を未然に防ぐためにも大変有効な対策と考えられます。ですから患者さんもまず、積極的に自分から、自らお名前を名乗っていただくことが安全の第一歩と考えます。名前をおっしゃるときには、姓だけでは不十分です。同姓の方はたくさんいらっしゃいます。いつも見知りあった主治医だけが医療にかかわるわけではありません。促されなくても、是非ご自分の名前（フルネーム）を毎回おっしゃることが、複雑な医療システムに身を置かれる患者様の安全のまず第一歩だと考えます。

病院は医療安全管理室を設置し、医療安全管理マニュアルに基づき安全な医療の提供を目指しておりますが、現実には完璧に安全なところとは限りません。ヒヤリハット報告でいちばん多いのは、転倒すなわち転ぶことで、当院では1年間に約400件発生しております。重大なことになれば、骨折、それも手術が必要な骨折、あるいは当院では幸いに起こっておりませんが、うちどころ悪ければ命にかかわることもございます。この転倒を有効に防止する手段は、世界的にもいまだ確立されておりません。

当院の属する国立病院機構としては、その転倒事故を減らすべく、世界に先駆けて斬新な取り組みをしております。ここ数年来の検討により明らかになったことは、患者さんの飲んでいる睡眠剤が危ないということです。お年を召されるとなかなか熟睡が得られないことがあります。しかし、睡眠剤をお飲みになっている患者さんは圧倒的に入院中に転倒する危険が高く、国立病院機構の作った転倒危険ランキングの最も危険な部類というマークをベットに貼らせていただきます。入院という違った環境になれば、熟睡が得られなくなる可能性もありますが、睡眠剤を飲むということは、ある危険を高めることだというご理解をお持ちいただきたいと思います。

医療安全管理室室長　統括診療部長　茅野眞男

# 退 任 の ご 挨 拶

昭和50（1975）年6月東京病院に就職してからあっという間に33年が経ちました。

当時は、合併して12年が経つのに、まだ旧国立東京療養所（傷痍軍人療養所）と旧国立療養所清瀬病院の二つの流れが厳然としてあり、医局会に出ると、初代院長砂原先生の書かれた哲学的な論文がいつも机に載っていました。2代目院長島村先生になって上の先生方が一気に退職されて雰囲気が変わりました。私は、芳賀先生の下で呼吸不全の仕事を始め、主に呼吸不全と結核の分野に関わってきました。この間、長期入院の時代から短期入院、在宅治療、地域連携へと変わりました。呼吸不全の世界でも、在宅酸素療法、在宅人工呼吸特に非侵襲的人工呼吸、訪問看護、地域連携の時代を経験してきました。新棟のICU開設のハードソフト面の基礎作りをしたのも懐かしい思い出です。1995年の前院長毛利先生の肺気腫のレーザー治療に関わる肺気腫入院患者さんの急増をきっかけに、患者教育のための多職種の参加する東京病院HOTの会、さらに地域連携としての北多摩呼吸リハビリテーション研究会を年2回開催することとしました。いまや前者は重要な病院全体の行事でありますし、後者は多摩地域の主要な病院が参加する多摩呼吸ケア研究会として実を結んでいます。私は、呼吸不全の技術的な進歩と普及への興味はもちろんですが、実際にそれを使う患者さんにどう受け入れられ、ほんとうに満足を与えているのか、問題点があるとしたらそれは何なのかに深い関心がありました。結核については、2002年に毎月1回、川邊先生と共同で始めた東京病院保健所結核連携会議が全保健所を対象とするまでになりました。この33年間、医局、看護、薬剤、PT、検査科、ＭＳＷ、医事課をはじめとする病院内外の皆様にお世話になり楽しく充実した日々を過ごさせていただきました。

ありがとうございました。

前病棟診療部長　町田和子

# 「在宅酸素（HOT）の会」定例会開催される

第27回在宅酸素の会が5月22日開催されました。

在宅酸素を導入して初めて参加の方、毎回参加してくださるベテランの方、酸素を使うか検討のため入院されている方、また療養を共にした患者さんに会える楽しみや、新しい情報や知識を得て、日常生活の中の不安を解消したいという思いなど皆さんそれぞれの目的で参加されます。

この会は5月10月の年2回定期的に開催され、10年以上の歴史をもっています。医師や看護師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーが順番に講演を行い、呼吸リハビリテーションについては、講演と実技が毎回実施されます。呼吸リハビリテーションは実生活に即した内容で日々の生活に活用されるようスタッフも指導に力がは入ります。

今回の講演は、循環器科医長の松永先生より、「心不全と肺性心」というテーマで、心臓の働きや自覚症状、食事の注意や水分の摂り方についてもわかり易く、おしえていただきました。また、最近の心臓関係の検査や画像診断、心臓カテーテルでの検査・治療についても学ぶことが出来ました。

今回はもうひとつ大きな出来事がありました。長く東京病院に勤められ在宅酸素の会の相談役として頼りにしてきた町田先生がこの6月で退職されるという事です。

この事をいち早く知った患者さん方は心にポッカリ穴があいたようにさみしさを募らせていました。「在宅酸素療法」は当時の患者さんと町田先生方の並々ならぬご苦労があって今日の「在宅酸素療法」が築かれたようです。今ではあたりまえの様に酸素を吸って町を歩いている姿を多く見かけるようになりましたが町田先生方の地道な活躍があっての事と聞いています。その功績に対し患者代表の方より当事の活躍の様子をお話いただき、感謝のお言葉と立派な花束を頂戴しました。

町田先生はこのあと、環境省関係のお仕事に就かれると伺っています。お体に気をつけられ、尚一層のご活躍をお祈りします。引き続き「在宅酸素の会」の発展にもお力をかしていただきますようお願いします。それでは皆さん又10月23日の「在宅酸素の会」でお会いしましょう。

6西病棟師長　佐々木美津

# 5東病棟紹介

5東病棟は、呼吸器内科病棟です。
急性・慢性呼吸不全や肺炎、肺癌など、急性期から終末期まで多岐にわたる呼吸器疾患の内科的治療を行っています。
医師と看護師の連携で患者様に安心した治療・看護が提供できるよう日々奮闘しております。

毎週１回医師と看護師の情報交換を行っています。
《合同カンファレンスの様子》

患者様への医療の提供は
医師と看護師で協力して
行います。

肺癌患者様への抗癌剤治療も年々増加しています。

**5東病棟スタッフより**
**常に患者様の立場にたった最善の治療ができますよう、これからも努力いたします。**

## 永年勤続表彰を受けて

昭和52年10月1日に国立療養所東京病院にボイラー技士として採用となり、今年4月1日付で永年勤続30年の表彰を受けました。30年間東京病院に勤務できたことは、皆様方のおかげと心から感謝いたしております。私が採用された当時の東京病院は、現在よりも自然豊かで朝にはカッコウの鳴き声が響き、まさにカッコウの森の中の療養所でありました。職員同士や患者さんとの交流も盛んに行われ、そんな中で私も看護婦さんと結婚し、宿舎で2人の子供を育ててきました。当時の暖房は全て蒸気を使用しており、蒸気配管が老朽化により蒸気漏れを起こし、あちらこちらから温泉のように噴出し、これを修理するために毎日のように床下に潜り、ほこりやクモの巣で真っ黒になりながら配管工事を行いました。

現在のエネルギーセンターには、平成12年に引越しをしました。東京病院エネルギーセンターでは、病室の$CO_2$濃度1000ppm以下の確保、感染防止のため結核病室の6回換気と陰圧の確保、給排水の水質基準の厳守、地球温暖化防止のための省エネ、防災センターとしての機能の維持等課題はたくさんありますが、これからも患者様にとって最良の居住環境と安全確保を目指しがんばっていきますのでご支援下さい。

ボイラー技士長　田野　幸雄

## 肝臓病に関する講演会

5月18日に、東京病院において、肝臓病に関する講演会を開かせていただきました。当院は厚生労働省肝疾患専門医療施設に指定されていますが、今回は地域住民の方々に、肝臓病の基礎から最新の知見まで、幅広くご理解いただくことを目的としました。40名程の方々においでいただき、また1時間半という大変長い時間にもかかわらず皆様ご熱心にお聴きくださり、心より感謝申し上げます。ご自身、あるいは大切なご家族が、肝臓病を患っている方が多くおられたようで、講演後、あるいは個別相談会でいただいたご質問は、実に現実的で、日常の診療にあたっているようでした。そして少しでも皆様のお役に立てたのであればありがたいことです。肝臓病は症状がないままに悪化し、ついには肝硬変、肝臓がんへと進行していきます。そして、気付いた時には手遅れとなっていることもよくあります。血液検査で、肝臓の異常を簡単に知ることができますので、健康診断をお受けになることをお勧めします。この講演会は毎年この時期に開かせていただいています。

来年もぜひお越しくださいますよう、お願いいたします。

消化器内科医長　上司　裕史

## 《清瀬市市民健康診査》

**清瀬市健康診査を東京病院で受けられます。**

平成20年4月より「特定健診」・「特定保健指導」の実施が各医療保険者において義務付けになりました。

これは、40歳以上75歳未満の被保険者及び被扶養者を対象にメタボリックシンドローム（内蔵脂肪型肥満）に対しての予防・解消に重点をおいた、生活習慣病予防のための新しい健診・保健指導です。東京病院では、特定健診の実施をしております。今年度の保健指導につきましては、清瀬市で実施をいたします。

また、清瀬市の後期高齢者医療健康診査につきましても実施しております。

受診希望者は、6番窓口又は電話で予約をお願いします。予約受付時間は、平日（月曜日～金曜日）の午前11時から午後5時の間でお願いします。

**特定健診実施日**

7月から12月までの　月・火・水・木・金・土
1月においては　月・火・水・木・金
（祝日を除く）

**予約窓口**　⑥番窓口
**電話番号**　０４２－４９１－２１１１（代表）

## ～地域医療連携交流会が開催されました～

当院は地域に役に立つ病院を目指して、主に清瀬市と東久留米市の診療所の先生70名に当院の連携医になっていただいております。そのうちの9名の先生が世話人となり、平成20年5月17日（土）午後、当院にとって初めての地域医療連携医との交流会を行ないました。　今回のテーマは、「地域に信頼される病院を目指して」で、17名の先生方にご出席いただきました。

第1部では、当院の診療科では、どんな治療をしているのか、何が得意分野なのかを地域の先生方に紹介することを第一目的として各診療科・看護部・コメディカル分野より各5～10分の発表を行いました。併せて平成20年10月から導入する予定をしている診療所の先生向けの「インターネットを利用した予約システム」を紹介しました。

続いて第二部では、参加していただいた地域の先生方と当院職員との意見交換及び親睦を深める目的で懇親会を開催しました。会場では、第1部でのプレゼンテーションの続き、診療方針の相談や今後の当院との診療連携について楽しい交流（手厳しい要望？）がいたるところで交わされて、和やかな懇親会になった。

今後、地域の先生方とよりよい連携ができるためにも、普段、電話連絡のみの関係になっているところに、顔と顔を向き合わせる機会をつくれたことは大変有意義なひとときであったと思います。今後は更に、このような交流会を重ね、個々の診療科単位でも勉強会等が主催できたらと考えております。

地域医療連携室室長　統括診療部長　茅野真男

## 「看護の日」記念行事を開催して

今年も例年同様「看護の日」記念行事を開催しました。5月12日のナイチンゲールの誕生日を記念して、「看護の週間」の時に当院でも地域の皆様との交流や患者様に少しでも安らぎを感じてほしいと考え、今年は5月15日10時より14時30分まで開催し、多数の方のご来院がありました。健康チェックでは10時前から測定の場所に並ばれ「毎年楽しみにしているのよ」との声もあり、中でも骨密度は好評で150名以上の方が実施されていました。今年から更に血管年齢測定とメタボリックシンドロームチェックができる器械を設置し、ここ近年でメタボ阻止のブームもあり自己の健康に関心の高いことが伺えました。介護福祉用具コーナーも自宅に帰ってから役立つ介護用品の展示品を業者から説明があり、熱心に話しを聞いている方も多数みうけられました。他に身近な健康についての対応を行う医師による医療相談、成人病、低栄養に関して栄養食品などを用いて相談に応じる栄養士による栄養相談、薬についての疑問に対応する薬剤師の服薬相談、放射線科による被曝相談なども実施されました。リハビリ科では日頃、杖や車椅子のメンテナンスもままならない患者様の為に、その場でできる手入れの方法等、様々な部門から協力を頂きました。

昨年から病院主催となり、13時30分から外来待ち合いホールでのイベント時、司会を事務部門に依頼し、ボランティアで御協力頂いた杉本夫妻の社交ダンスとデンマークのリッタさんのピアノ演奏も好評のうちに終了しました。

今回も、「看護の日」の行事を通して、多くの方々から率直なご意見、素敵な笑顔を頂く事ができました。これらのご意見は、今後の病院の行事や地域の皆様に愛される病院作りの参考とさせて頂きたいと思います。

ご参加・ご協力いただいた関係者の方々に深く感謝いたします。

看護師長　吉田ひろみ

≪健康チェックコーナー≫

≪ダンスとピアノ演奏≫

医師の相談コーナー新設

### 編集後記

「今年もカルガモがやってきました」

今年も待ちに待ったカルガモの季節となりました。ここ数年、外来の中庭でカルガモ親子が見れることで、東京病院のマイブームとなっています。今年は現在まで10匹が誕生しました。昨年の17匹に比べだいぶ少なくちょっと寂しいのですが、日に日に大きくなって行く様子を見られることが、毎日の楽しみとなっています。

産毛で覆われた子ガモ達が、親ガモの後について遅れまいとよちよち歩く姿や気持ちよさそうにプールで泳ぐ姿が愛らしく、患者さんや職員の癒しとなっております。

庶務班長　藤間勝巳

# 専 門 外 来 案 内

| 専門外来名 | | 診察日 | このようなことでお悩みの方は、ご相談ください |
|---|---|---|---|
| 肝臓 | | 月～金 | 体がだるい、黄疸や食欲の低下、健診で肝障害のある方、平成４年以前に輸血を受けた方。 |
| 呼吸器関係外来 | 喘息 | 火（午後） | 「喘鳴」「発作性の咳」が主な症状です。特に夜間から明け方の咳き込みは要注意です。 |
| | 禁煙（予約制） | 水（午前）<br>木（午後） | タバコがどうしてもやめられない方。<br>（当院の禁煙外来は、平成20年１月より保険が適用となりました。） |
| | 肺がんセカンドオピニオン（予約制） | 木（午後） | 肺がん治療についてのセカンドオピニオンを希望される方。［30分：5,250円］ |
| | 間質性肺炎 | 水（午前） | この病気は「息切れ」と「から咳」がよくある症状です。<br>治療が難しく、膠原病に合併する場合もあります。 |
| | 非結核性抗酸菌症 | 月（午前） | 咳や痰が出て、血痰があるなど一見結核にみえますが違います。<br>結核とそっくりの症状がこの疾病です。他人への感染はありません。 |
| | 気胸 | 火 | 突然の胸痛、息苦しさを感じます。 |
| | いびきCOPD（睡眠時無呼吸症候群の検査） | 月～金 | ご家族などから「いびきが大きい、長く続く」あるいは「ねている時に息が止まる」などと言われた方。COPDを疑われたり、COPD呼吸リハビリを御希望の方。 |
| | アスベスト（予約制） | 水（午前） | アスベスト（石綿）を扱うお仕事をされた方。<br>アスベスト吸入による肺の病気について御心配な方（予約制です） |
| 手掌多汗症 | | 金 | 今増加している疾病です。手のひら、腋、顔面の発汗が多い症状です。<br>（汗で手が滑る、握手もできないこともあります。） |
| もの わすれ外来 | | 水（午後） | 最近ものわすれのひどい方、アルツハイマー病などが心配な方。<br>（あらかじめ神経内科を受診して下さい。） |
| 高次脳機能外来 | | 木（午後） | 失語・失行や健忘などの診断、リハビリテーションへの紹介など（要神経内科外来受診）。 |
| 糖尿病 | | 木（午後） | のどがかわきやすい、体重が減ってきた。<br>（無症状が多いので、健康診断で異常を指摘される場合が多い。） |
| 緩和ケア | | 木・金（午前） | 苦痛の緩和を必要とする悪性腫瘍やエイズによる痛み等いろいろな症状でつらい思いをされている方。 |

**受付時間　8：30～11：00　　診療時間　8：30～17：15**
**午後の専門外来は、12：30より受付**
**休 診 日　土・日・祝祭日および年末年始（12月29日から１月３日）**

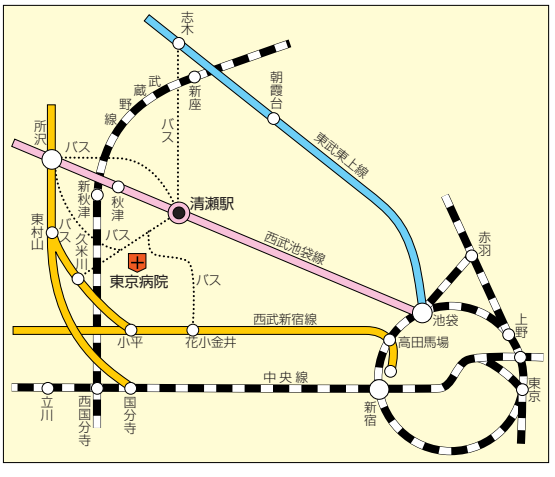
**代表電話番号　042-491-2111**
内線番号がおわかりの方は042-491-4134
（ダイレクト・イン・ダイヤル）をご利用下さい

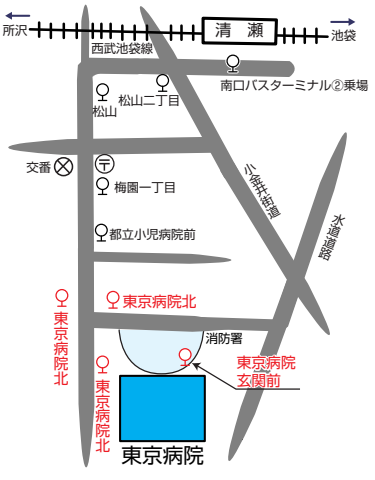
**医療連携室よりお知らせ　患者様をご紹介いただく場合（医療機関）**

| | | |
|---|---|---|
| 外来診療の予約 | ：診療依頼書をFAX送信して下さい | FAX 042-491-2125（8:30～15:30） |
| CT・MRI検査の申し込み | ：医療連携室へお電話下さい | TEL 042-491-2934（8:30～17:15） |

**診療内容　病床数５６０床**

- 呼吸器科
- 消化器科
- 循環器科
- リハビリテーション科
- 呼吸器外科
- 消化器外科
- 神経内科
- 内科
- 外科
- 眼科
- 放射線科
- 麻酔科
- 整形外科
- 緩和ケア科
- ＩＣＵ（集中治療室）
- アレルギー科
- 泌尿器科




## 交通

●西武池袋線　清瀬駅南口よりタクシー５分、または南口バス２番乗り場より久米川駅行・所沢駅東口行は東京病院北下車、下里団地行・滝山営業所行・花小金井駅行は東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)

●ＪＲ武蔵野線　新秋津駅よりタクシー10分、または西武池袋線に乗り換え。

●西武新宿線　久米川駅南口バス３番乗り場より清瀬駅南口行で東京病院北下車。または花小金井駅北口より清瀬駅南口行きで東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)

●ＪＲ中央線　武蔵小金井駅より清瀬駅南口行のバス路線があります。

●東武東上線　志木駅南口より清瀬駅北口行のバス路線があります。

●お車でお越しの際は正面よりお入り下さい。（駐車場２６５台）
30分以内　無料
31分～２時間　１００円
以後１時間毎　１００円
（20時15分～７時　１時間毎３００円）